

群馬県 グループホーム「陽だまり」 地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営主体が医療法人のグループホームなので、入居時には医療管理を望まれたり、必要であつたりする人が多い。しかし入院患者という考え方ではなく、「陽だまり」という介護付き住居に集まった人々が一緒に暮らしている。家庭という考え方の基、「ゆずり合い、信じ合い、助け合い」ながらの暮らしをサポートしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一人ひとりのその人らしさが分かってきても、今まで暮らしてきた環境や物事の価値観の違う人々が、長く一緒に暮らすということは簡単なことではない。毎日、ひとつひとつの場面ごとに入居者たちの思いを調整している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者は地元前橋に住んでいた人ばかりだが、入居者にとって前から暮らしている所という認識は薄い。そういう人々がここで暮らしているということを、家族は理解している。地域の人々には運営推進会議やホームの外に出て行くことにより、今までもこれからも理解してもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接の同法人病院・老健増設工事に伴い、来年3月までは工事車両もあり、安全面を考慮し、表玄関側からの出入りは控えている。	○ 工事の進行具合を見ながら、今まで以上に立ち寄れる雰囲気作りをしたい。職員や経営者側とも相談したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として病院や老健と同じように交流している。18年度以降、自治会の活動にお世話になったり協力したり深まっている。	○ 段ボール等リサイクルできるものを廃品回に出したり、老人会の清掃活動等に参加できたらと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人生方会主催で8月に納涼祭を実施している。病院受診の高齢者や近所の人々が訪れ、季節の新鮮な野菜を安価で購入したり、職員が企画運営する模擬店で遊んだりしながら交流を深め、地域の人々が訪れやすいようにしている。	○	ホーム独自では行っていないので、私たちの小さな力でもできることから、何か始めたい。
し				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価の内容が改められたことを機に職員みんなに、自分を見つめ直してもらった。昨年までの改善項目は、目に見えて分かることなので改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人通じての交流から、直接地域の人々との交流へと意識が変わってきている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	互いに相談したりされたりすることができ、分からないことをそのままにせず、サービスの質の向上につなげている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、職員の半分くらいは研修を受け知っていると思うが、今まで必要と思われる機会がない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での虐待が報じられたとき、自分たちはどうなのか。管理者として、逆に職員たちに無理なことをさせてないか、意見を言えない体制にしているか、考えさせられた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の、書面での説明は一方的になりがちと思う。説明される側は、本人・家族とも、ここにいられるだろうか、ここに置いてもらえるだろうか、「不安が、いっぱい」ということを前提に時間をかけ説明している。疑問があれば、再度説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの苦情は、積極的に聞くようにしている。ホームの生活や職員への不満を聞くことにより、真のニーズは何か、どうしたいのか把握できる。管理者や職員では物足りない時には、理事長や市役所又は、本人が望む人に話せるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時やメール・電話にて知らせている。運営推進会議でも報告し、議事録はすべての家族に配布している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満や苦情は言いにくいことが多いと思う。職員自身がその立場になり、意見や気持ちを表出できるような話し方や接し方ができてきたので、現在のような家庭的な雰囲気が出てきたと思う。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織のなかには、委員会活動や法人の行事など他部署とのつながりがある。また、職員交流の場もあり、意見を言い合えたり、情報交換できる機会がある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成時に予定されることへの人員の確保や、急な出来事への人員の移動など、入居者や家族が困らないよう勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム開設以来、職員の異動は少ない。7人中2人は変わらず、新人といえども3年は勤務している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援専門員や介護福祉士の資格を取得。県や市で実施している、座学での研修、演習での研修、グループホーム連協で実施してるレベルアップ研修を実施、法人内の研修など、全員が学ぶこと、必要に応じて学ぶこと、それぞれ実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連協通じて、地域等の同業者と一緒に研修の場や職員交流の場を提供する取り組みをしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦会や組織とは関係ない私的交流もあると思う。	○	人間関係におけるストレスは、どこの職場でもあること。それを前提として、意見が言える、意見を聞ける環境になるよう気をつけている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの資質や努力や実績を認め応援してくれている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居する、しないに関わらず、初期段階ではホーム全体の雰囲気、本人との信頼関係を築くためにとても大事なことだと考えている。10時や3時のお茶時など、他の入居者とも自然な形で交流できる場への見学を何度でも、経験してほしいと思う。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と一緒に来る見学の他に、本人がいない方が話しやすい場合「例えば、金銭面のこと、家族が困っていること」は、電話でも話を聞く機会を作っている。初期段階では説明した後、に色々聞きたくなることが出てくるようだ。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人から聞き、次に家族から聞いて本人の全体像を把握した上で、ここでできること、できないことを伝えている。ここではできないが他のサービスで可能な情報も伝えている。今までしていないことでも、本人・家族のニーズに合うよう相談できる体制にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前、ホームのお茶の時間等に家族と一緒に来訪してもらい、突然の環境変化による混乱防止に努めている。入居当日又その後も、家族が泊まることも可能。ホームで一緒に食事するのも可能。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が伝えたいこと、思っていることを感じとって一緒に行動したり、居室で2人だけで話したり、時には注意を受けたりし、支えたり、支えられたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、こちらから話しかけることにしている。本人の介護方針を決めていく上で、家族が思っていることを気兼ねなく話せるよう普段から気をつけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の気持ち、家族の事情や気持ちを理解し双方の間に入り、支援できるよう努めている。本人と家族の気持ちは一致しずらく、代替えの方法がないか、本人と関わりのあった人から情報収集するよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と関わりの合った人誰もが、気兼ねせず会えるような環境を作っている。「墓参りや家に帰りたい」と、希望がある場合には、その時の本人の気持ちを優先に置き、周りの調整をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	耳の遠い人や認知症状の重度の人が多いため、入居者同士の関係は希薄だが、少しでも関わられるよう通訳する気持ちで双方の対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	守秘義務を考慮しながら、家族からの電話や来訪にて相談や質問に応じている。サービス利用が終わっても、気軽に立ち寄れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に関する全てのこと、日常生活の立ち振る舞い・入居者や職員との会話・バックグラウンド・家族等からの情報を基に、ケアカンファレンスを行い希望や意向を導きだしている。墓参り・買い物・漬け物が食べたい等、一緒に出かけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	33と同様カンファレンス通じてうらづけを取っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の状態を個人記録や業務日誌に記録している。個人記録の様式を変更し、本人の状態をそのまま記録に残せるようにしたため、職員全員が現状を把握できるようにした。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンスの実施と状態変化による見直しの実施をしている。ミーティングには、職員全員と必要に応じて本人や家族にもお願いしている。医者や他の医療関係者には、事前に意見をもらっておく。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	いつでも家族に相談できる状態にあり、それを基に職員間で話し合ったことは業務日誌等に記入し情報共有し、ケアの方法を変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画立案や見直しの時には、個別記録を見直しながら今までのことを整理し、本人の全体像を共有し、今後本人の望む生活には、どんな援助が必要か考えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の同法人病院や老健の職員にも協力してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年の3月からシニア傾聴ボランティアにより、話し相手をしてもらっている。入居者がおまわりさんに相談したいことがあるからと派出所を尋ねた時には、聞いてくれ協力をえられた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネジャーや介護用品販売店スタッフ等相談に乗ってもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ該当する入居者がいない。介護予防事業はしていないため、包括支援センターとの連携はあまりない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医の場合は、継続依頼し往診してもらう。受診する場合には、家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の往診は、2週間に1度定期的に行っている。状態急変時には、電話連絡にて指示もらっている。薬の変更時には記録し、専門医に報告している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接病院の訪問看護と契約している。週に1度訪れ、状態報告し指導してもらい受診を進められたりし、健康管理の支援をしてもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先での身体状況を担当医師や本人にも会い、把握するよう努めている。往診等医療連携できるようならば、家族とも相談しながら早期退院を進めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化対応指針についても説明している。実際に重度化が心配される頃になると、ケアカンファレンス時に話し合い、さらに家族来訪時に現状報告しながら今後の方針を聞き、主治医にはその旨伝えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最近、重度化や終末期と考えられる入居者の対応してきた。往診や訪問看護の医療連携、家族との連絡相談、職員間の情報共有、本人の気持ちや考えなど、総合して行えたと思う。今後もこの経験を生かし、本人・家族に満足のいく支援をしていきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームに入居の際には、住み替えによる不安を和らげるよう本人の話しをよく聞く。家族や今までいた所から情報をもったりしダメージが少ないよう努力している。他の所に移り変わる時には、家族に退所時指導を行い、その後も求められれば情報提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた声かけ、話し方をケアカンファレンスにおいても考え統一しているつもりだが、入居者にとってみると思うようにしてくれないと感じてしまう場面もみられる。記録物の管理においては、関係者以外に見られないようテーブルの上なども気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴予定し誘うが、「入りたくない」と言う時には、明日の予定者と交換したり時間をずらすなど工夫している。それぞれの入居者の理解力や性格に合わせた援助を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで決められてるのは食事の時間だけで、その他のことは入居者の希望や予定に合わせ調整している。できるだけ入居者が自由な時間が過ごせるようにしている。望むことが実施できないことでも、納得に近い援助ができるよう努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回程度、訪問理美容を利用している。化粧品なども買いに行ったり、頼まれて職員が買いに行ったりしている。	○ 入居者によっては行き慣れた美容室でパーマやカットできたいと思う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接病院から栄養管理された食事を提供しているため、準備や片付けには重きをおいていない。下膳してくれる人には感謝の気持ちを伝えている。楽しみの観点から出前や外食もしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	果物の好きな人、芋類の好きな人、どこどこの何が食べたいなど、好みの物を楽しめることを大切にしている。現在は希望する入居者がいないが、酒やたばこも健康状態や決まりを作り楽しめるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	季節や昼間、夜間等その時々に合わせて対応に努めている。また一人ひとりの排泄パターンを把握し、同時に排泄サインを見逃さないようにしている。排泄介助に関して、男性職員の対応に抵抗ある入居者にはその気持ちを尊重している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が好きな入居者には清潔保持を目的だけとせず、入浴を楽しみとして位置付けている。入浴したくない時には無理強いせず、順番を変えたり、明日の予定者と交換したりして調整している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファを色々な所に配置し、家でゴロリできる感覚と同じようにしている。入居者一人ひとりの生活を尊重し、睡眠パターンを把握している。落ち着けない入居者の午睡には、添い寝し安心させている。医師に相談し睡眠薬処方して貰うのも可能。オムツ交換により不眠にならないよう、種類の見直しもやっている。		
し				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時記入して貰う生活歴を参考にしたり、家族や本人から聞いたことから、できそうなことや楽しめそうなことを提示してみる。世話をされることが多い立場の入居者にでも、「ありがとう」と言える状況を大事にしている。手紙や電話の手伝いや洗濯物量みや買い物など行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの財布と小遣いノートを用意し、欲しい物や食べたい物が買えるようにしている。本人がお金の価値を分からなくても、家族の理解が得られれば持ってもらっている。支払時には本人にお願いし、きちんと払える人、いつもおつりを貰う人と力に応じた支援を心がけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、通院、花に水やり、ただ何となく、帰りたいなど希望に答えられるよう努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームとしては、お墓参りやお祭り、ほたる鑑賞など、複数人数で外出の場合は事前に計画立て実施している。家族だけの外出でも介護タクシーの手配や外出中の注意事項など、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳が遠い入居者の電話利用時にはボリューム上をげたり、拡張器を使用したりしている。本人にわかりやすいように間に入り通訳している。携帯電話使用継続の支援や手紙の代筆やFAXもしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めてなく、いつでも来訪できるようにしている。季節に応じて戸締まりする時間は異なるが、来訪時間が遅いときには連絡もらえれば対応できる。面会者に応じて居室がいいのか、準備するものはないか考え行動するよう指導している。来訪者には、また来ようと思えるように、入居者には楽しい時間だったと感ぜられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関するシンポジウムに参加したり、ミーティングや職員同士の会話の中で、どうしていけないのか話している。落ち着けなく徘徊してしまう時には、本人の隣に座り話したり、共に行動したりしている。それに伴い他の職員間で業務の割り振りし、行動してくれている。つなぎ服は、パジャマの感覚で使用しており、排泄のサインがあった時にはトイレ	○	事故予防観点や業務をしなくてはいけない等の気持ちから、拘束も仕方ないと思いしてしまった後でも、その状態を報告し相談できるゆとりを持ちたい。対象者の状態やその場の状況も変わるので、今後もケア方法の工夫と共有を続けて行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけないことは継続している。しかし今年は隣接病院増設工事中のため、入居者の玄関の出入りは控えている。自己判断できない車椅子利用者の不意の動きにも対応できるよう、椅子を置き安全の確保に努めている。居室の外鍵は本人が居ないとき、本人の安心のため使用している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は落ち着けない入居者の所在、居室にこもる入居者の様子をそれとなく確認し、夜間は転落や不眠の様子などに気を配りながら対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針やはさみなどを管理できる入居者にはしてもらっている。仏様に線香を上げているのでマッチを使用しているが、ホームで預かり管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	同法人で実施している安全対策委員会に加わり、研修会に参加している。入居者一人ひとりの状態に合わせた対応しているが、歩行できている人たちは転倒のリスクが高い人ばかりで、常に目を離せない状況。事故防止について過去の出来事、ヒヤリしたことを職員間で繰り返し話し教訓にしている。	○	手を引いたり、付き添える状況の時にはいいのだが、不穩で落ち着けない状態の時には、しなくてはならない業務があっても不穩者を優先に考え、職員間の連携で仕事を進めていくよう伝えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療安全対策マニュアルを把握している。定期的な訓練実施はしていないが、過去の経験は活かされており、医療が必要になっても現場にいる職員で手分けしながら行動できている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	商店や住宅のある地域に立地しており、日頃の買い物等外出を利用し避難できるような体制作りをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	上記69の事故防止の取り組みと関係すること。介護計画立案時に、家族にも参加してもらい本人の状態をしってもらい、どうしたら自然な姿で暮らしていけるか一緒に考えてもらう。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員はローテーション勤務であることをしっかりと認識しており、入居者一人ひとりの全身状況の異変を発見し情報共有できている。必要な場合には訪問看護からの指導や主治医からの指示をもらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬リストから用法や副作用などが分かり、与薬や見守りだけでなく症状の変化や確認でき、医師からの電話連絡にも速やかに対処している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表から排便の有無や形状が分かるようにしている。毎日チェック表を確認しながら飲食物の工夫や足の上げ下ろし、腹部マッサージなど一緒に行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔洗浄を呼びかけ、無理のないよう行っている。部分入れ歯の人には、3回のうち1回は見せてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好に合わせ無理をせず、栄養・水分を摂取できるよう工夫している。食事に関しては専門家により栄養管理されている。水分摂取に関して緑茶、コーヒー、紅茶など飲みたい物を。嚥下に問題ある場合にはごっくんゼリーなど喉どおりのいい物、状態に合わせている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	同法人の感染症委員会を中心とした研修を行っている。食事前はせっけんと流水で手指を清潔にしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食事調理をホームでは行っていないが、ホームにも電磁調理器と食器洗浄機のユニット式の台所があり、食器類は温熱乾燥にて消毒している。居室には生ものは置かないよう家族にも協力依頼している。冷蔵庫には家族より預かった物を保管と処分しながら適時提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の雰囲気を出さないように、鉢植えやゴーヤや朝顔の棚、池には金魚がいる。。今年は病院の工事に伴い安心して出入りができない。入居者の出入りは裏口を使用している。	○	来年の工事終了後、ホーム駐車場や玄関や庭先など経営者と相談しながら、近所の人を訪れやすいよう工夫したいと思う。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの随所にソファや椅子を置き、観葉植物や季節の花、雑誌など配置し工夫しながらくつろげるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の家具や椅子は、来訪者やその日の状況に応じて工夫できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた家具やテレビを持ち込んでもらっている。本人と相談しながらタンスや物の配置を変えることにより、気分転換にもなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の高齢化は進んでいるが、常時オムツ使用者が少ないなどのことから臭気は感じられないと思う。室温は冷やしすぎや暖めすぎないように朝の天気予報を参考に事前調節を心かけている。		
思う				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な入居者は、食堂やトイレ・フロアの共有スペースに近い居室にしたり、車椅子自乗できる入居者は運動量確保できるようにしたり、洋服掛けの高さ変えるなど状態にあわせた工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	定期的なプラン作成のほか、状態変化に応じた観察・分析を行い、わかる力で、できる暮らしが続けられるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	今年は隣接病院の増設工事に伴い、花壇の花を摘んだり、池の金魚を見たりすることが自由にできないが、工事が終われば今まで通り外で花を見ながらお茶もできると思う。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム開所時から病院に隣接のため、医療連携義務付けの制度がなくとも医師からの助言や往診は充実しており、現在は訪問看護も増えより充実し安心できる生活が送れている。前橋駅に近く遠方からの家族来訪、ショッピングセンターや商店への買い物、和洋食好みに合う所での外食や出前など便利な環境に位置していながら、今年にはゴーヤやいちじくも自家栽培し食えることができた。このように毎日の生活も、その日の状態に合わせ入居者が選択しながら当日出勤職員の個性ある工夫も加わり、より変化もある暮らしを実現できている。